

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本



みんなの読書活動

市制施行50周年を記念して「みらい懇談会提言書～夢と希望に満ちたこれからの守山」の一つに「読書日本一のまちづくり」が掲げられました。

岡市立図書館

☎・☎(583)1639 ☎(583)6949

社会教育・文化振興課

☎・☎(582)1142 ☎(581)2733

質問 守山の子どもたちは、どれくらい本を読んでいるの？

答 毎年2回の読書量調査の結果を見てみましょう

本市では「守山市子ども読書活動推進計画」に基づき、毎年5月と11月に読書量調査を行っています。今年度(11月)の調査では、読書冊数や読書割合が従前より大きく伸びており、長期化するコロナ禍の過ごし方の一つとして、読書が選択されていることが考えられます。また、滋賀県全体(令和3年5月調査)の平均読書冊数(小学生8.4冊、中学生3.3冊)や1ヵ月に1冊以上本を読んだ割合(小学生

95.6%、中学生87%)よりも高い数値となっています。



読書活動は子どもたちにとって、言葉を学び、表現力や感性を養い、思いやりのある優しい心を育みます。また、ものの見方や考え方を深める重要な活動でもあります。そのような読書の習慣を子どもたちが身につけるためには、学校・園に加えて、家庭でも本に触れる機会を増やすことが重要です。ぜひご家庭でも読書に取り組んでください。

守山市の読書冊数・読書割合

1ヵ月に読んだ書籍の平均冊数(11月)			
	令和元年	令和2年	令和3年
小学4～6年	8.6冊	9.9冊	10.6冊
中学生	3.8冊	3.6冊	4.1冊
1ヵ月に1冊以上本を読んだ割合(11月)			
	令和元年	令和2年	令和3年
小学4～6年	96.7%	94.7%	99.1%
中学生	89.1%	89.3%	95.8%

佐川美術館
アートコラム⑤

大人顔負け?!
小さな画伯たち渾身のアート

学芸員 佐川美術館
相田 莉央



未就学児から小学校高学年までの子どもたちを対象にしたこども絵画コンクール。「心に残った思い出や出来事」をテーマに、今年度は1、451点もの作品が全国から寄せられました。

未就学児、小学校低学年、小学校高学年の3つの部門に分けられた作品を一つ一つ見ていくと、子どもたちの描き方が年齢とともに変わっていくことに気付かれます。それぞれの部門ごとに色使いや構図、人物など全体的な描き方が異なっていることも特徴的です。未就学児はエネルギーが豊富で、原色を多く使い、子どもたちが特に印象に残ったもの、例えば虫や食べ物などをダイナミックに描いています。

人物の全身を画面の中におさめようとする未就学児に比べ、低学年は人物の一部分のみを描いたり、遠近法を活用したりと、構図に工夫を凝らしたものが見られます。高学年では人物よりも風景画や静物画が多く、グラデーションや陰影、色の微妙な重ね具合は、もはや大人顔負けの仕上がりがです。

もちろん個人差もありますので一様にすべての作品があてはまるとは言い切れませんが、それぞれの部門ならではの持ち味が発揮されていることに間違いありません。

佐川美術館では、厳正な審査によって選ばれた合計75点を、2月22日(火)から優秀作品展として展覧します。

毎年、鑑賞されたお客さまから「上手だな」という声をよく耳にします。個性豊かな子どもたちの渾身の力作を、ぜひご覧ください。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800]でお問い合わせください。